産経ニュース

閉じる

2014.10.18 07:02

# 富津市「破綻」寸前　３０年度には再生団体転落の恐れも　千葉

富津市が財政破綻寸前の状況に陥っている。このまま手を打たなければ、平成30年度に市町村の財政破綻の基準とされる実質赤字比率が20%を超え、北海道夕張市と同様に国の管理下に置かれる「財政再生団体」に転落する見通しだ。

市は今月末に公認会計士など有識者による経営改革会議を立ち上げ、財政の抜本的見直しに取り組むほか、例年20人ほど採用していた新規採用職員を来年度は3人に減らすことを決めた。公共施設の統廃合も検討するという。

市が8月に発表した中期収支見込みによると、27～31年の5年間の財源不足は計28億円。貯金にあたる財政調整基金残高は26年度末で1億5千万円となっている。今年度の決算見込みは歳入が160億1300万円、歳出が160億300万円でわずかに黒字となる見通しだが、27年度は3億2400万円の赤字に転落。残った財政調整基金を全て充てても、財源が不足することになる。

市によると、高齢者への社会保障費の増加や、職員の人件費が財政を圧迫。近年は企業からの固定資産税や法人市民税も減少したため、財政調整基金を切り崩して不足分を賄っている。市の規模に対して多すぎると指摘されていた職員（4月1日現在509人）も、今後5年で約90人減らす計画だ。

市は今月中旬から、11カ所で市民向けの説明会を順次実施している。佐久間清治市長は16日の同会で「現在の財政状況を回復させることが使命。早く良い報告ができるよう、経営改革を断行する」などと決意を述べた。

©2014 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.

資料７－２